みんなの文芸

引間豐作選　投稿数24句

薄氷の沢を巧みに小鳥の歩　三沢　新井　民子

（評）俳句は、原則として一つ季語が含まれていなければならない。一句二季語で、同季のものである場合、解釈するに難しいことはないが、季違い（季を異にする）の場合、どちらが主で、どちらが副であるか、はっきりとしていなければいけない。強い季語と弱い季語があって、一句に共存し季語として働いているのが強い季語のみであるなら、季重なり季違いはあまり気にならない。掲句は、「薄氷」（春）と「小鳥」（秋）の二つの季語を用いているが、どちらかを簡略にすることができない性質のものなのでしかたない。この場合の主は「薄氷」である。

春愁や何をやっても今一つ　皆野　市川　岳樹

受験子を駅まで送り励ませり　皆野　大沼シヅ子

大声に犬も遠吠え鬼やらい　皆野　吉岡　貞良

真っ青に空澄み渡る雪後の日　皆野　源氏　和幸

まめまいてこころのおにをおいだそう　皆野　たばたるみか

臘梅の甘き香りを雪が抱く　皆野　保科　従道

おっぱいを哺み寝入る嬰春隣　皆野　引間　千鶴

数の子の歯ごたへも亦美味の音　皆野　関根　助市

嶺黒く月光さえり盆地寒　皆野　戸塚喜久雄

尾の内や氷柱の虎の天に吠ゆ　皆野　根岸　詩子

今日という立春に見る雪景色　下田野　新井　節子

冬夕焼落葉ならして早あしに　下日野沢　新井　進

中田久恵選　投稿数21首

現代に通用せざる嫁の日も懐かしむ程時は過ぎたり　下日野沢　浅見　豊子

（評）この歌の一字一句が過去の日本の嫁の座の悲しく苦しく非人間的な日々であったかを如実に物語っている。全く同感と云う声が怒濤の如く耳底から湧いて来る様な感覚に浸る歌である。しかし「懐かしむ程時は過ぎたり」と結句にあり、今の幸を静かにかみしめる秀歌で私も安堵の胸をなでおろし感慨にふけっている。どうぞ終生おだやかで更に幸な日々であります様に祈ってやまない。ここに二首「古き書に栞りてありし露草の涙にくれし昏き嫁の日」よみ人しらず。

心こもる吾娘の手打届きたる慈愛の余韻に夕餉弾みぬ　皆野　新井　愛子

過疎すすむ曾ての任地男児生る初春に舞い込む言祝ぐ便り　皆野　引間　万亀

訝りて「ええっ」と言えばすぐ切れぬ吾子の名騙る男の電話　三沢　眞下　杏子

健康の二文字を常に心がけ年立つ大地に深呼吸する　皆野　根岸　詩子

寒紅梅、水仙、臘梅香らせて春は隣りに山間の里　三沢　長谷河ソノ

足らざるは補いあいつつ気遣いつ二人三脚夫とのくらし　三沢　新井　叶子

フツフツと清白粥の煮えたぎる馴染み親しむ夫婦の朝餉　三沢　鈴木　貞恵

多賀城の先人の歌碑波止めて人を救はむ今の世を継ぐ　三沢　新井　民子

迷い猫家猫にして老二人会話無けれど癒されの日々　下田野　新井　節子

短歌詠みの指を折り行く散歩道出来し喜び心躍りぬ　皆野　関根　助市

大滝の厳寒の夜に氷柱射すライトアップの光も凍る　皆野　打木　昭広

蛇口より水を垂らせば夜が明けて氷柱となりてかがやきており　皆野　保科　従道

格子戸をくぐりて土間に入りたる古き民家は歴史語りて　皆野　源氏　和幸

ホームにてお話出来て楽しかり心の友やすこやけくあれ　下日野沢　鈴木　キク

俳句・短歌を募集

作品には、ふりがなをつけ、住所・氏名を明記して総務課へお寄せください。

8日必着

1人1句、1首に限ります。

1歳のお誕生日おめでとう

朱莉ちゃん

駒形区　勅使河原洋一さん　陽子さん

いつもにこにこ癒し系。
生まれてきてくれてありがとう。

悠翔くん

上の台区　持田　和久さん　亮子さん

笑顔を忘れずに、
心豊かに育ってね。

咲良ちゃん

原区　大澤　将史さん　純子さん

音楽が大好きな咲良♡
お兄ちゃん達と仲良くいつも笑顔でいてね。

楓真くん

元金沢区　野口　元樹さん　あゆみさん

いつも笑顔をありがとう。
元気ですくすく育ってね♡

※満1歳の赤ちゃんを募集します。4月号の締め切りは、3月10日㈪まで。ホームページからも応募できます。

国保　負担割合が変わります

対　象
平成26年4月以降70歳になる方

負担割合
2割
（現役並み所得のある方は3割）

期　日
誕生日の翌月から
（1日が誕生日の方はその月から）

問合せ　町民生活課保険年金担当
☎62-1232